

高校生ロボット相撲大会 2026

開催要項

1. 趣旨

高等学校生徒に、ロボット作りを通じて技術の基礎・基本を確実に習得させるとともに、技術研究の目標と実際に問題解決する体験の機会を与え、もって生徒・学生等の学習意欲の向上と自発的、創造的な学習態度の育成に資する。併せて、海外に通用する人材の育成、新技術への関心と夢を育み、ロボット技術の向上を目指す。

2. 大会運営の概要

(1) 主催

公益社団法人全国工業高等学校長協会,富士ソフト株式会社

(2) 後援 (申請予定)

文部科学省, 経済産業省, 公益財団法人産業教育振興中央会, 公益社団法人全国工業高等学校長協会

(3) 協賛

富士ソフト株式会社

(4) 参加者

高等学校生徒

(5) ロボットの種類とクラス

ロボット力士は 500g クラスの自立型とラジコン型の 2 種があり、それぞれ予選・決勝を行う。

(6) 地区予選会と全国大会

地区予選会にて全国大会に出場するロボットを選出する。選出数は地区により異なり、別に示す。また、地区予選会の上位入賞者に、「全日本ロボット相撲大会 2026 決勝大会」への出場権が与えられる。

3. ロボット規格および試合方法の概要

以下に示すほか、詳細については別紙「試合規則」による。

(1) ロボット力士の規格 (500g クラスのみ)

- ①ロボット力士の外形は、幅 10 cm、奥行 10 cm、高さ自由の四角形枠内に収まるものとする (形状は自由)。
- ②ロボット力士の体重は、500g 以内とする (附属部品を含む)。
- ③ロボット力士の種類は、自立型・ラジコン型の 2 種とする。

自立型とは、審判の合図で取組を開始する際、審判がリモコンでロボットのスタートを指示した後、ロボット自身が人手を介さず行動を開始するものである。

ラジコン型とは、参加者が無線制御機を用いてロボットを遠隔操作するものである。

- ④自立型の制御方法は自由とする。ただし、スタート及びストップについては、事務局が指定する制御に合わせて動作するものとする。
- ⑤ラジコン型での使用電波は、2.4GHz、27MHz（01～12）のナローバンドまたは40MHz（61／63／65／67／69／71／73／75バンド）の陸上用とする。
- ⑥ロボット力士には、制作者が6文字以内の「しこ名」をつける。

（2）試合の定義と土俵規格

- ①試合は、試合者（ロボット操作員は1台のロボットにつき1名とする）双方が試合規則に従って、定められた土俵内において、試合者が独自に製作したロボットを用いて相手を土俵外に押し出したものを勝ちとする。また、土俵内で有効決まり手（別紙試合規則による）を競い、審判員の判定により勝敗を決めるものである。
- ②試合は3分間3本勝負とする。
- ③試合方式は、自立型、ラジコン型ともトーナメント方式による。
- ④土俵は、高さ2.5cm、直径77cmの木製（メラミン塗装もしくはメラミン化粧板）の円形とする。
- ⑤土俵内には仕切り線を設ける。土俵内外の区画線は、2.5cmの白色線（白色線は土俵内）とする。

4. 地区予選会

- （1）大会概要 ※都合により変更することがある。

全国を7地区に分け、次の地区予選会を開催する。

北海道地区予選会、東北地区予選会、関東地区予選会、北信越・東海地区予選会、近畿地区予選会、中国・四国地区予選会、九州地区予選会

※参加見込み及び開催地区の状況を勘案し開催地区を変更する場合がある。

- （2）会場・開催日 ※都合により変更することがある。

別途定める。

- （3）参加者

高等学校生徒

- （4）全国大会の出場権

地区予選会の上位入賞者は、「高校生ロボット相撲大会 2026 全国大会」への出場権が与えられる。選出台数は別途定める。

また、地区の地区予選会の3位までの入賞者は、自立型、ラジコン型ともに、「全日本ロボット相撲大会 2026 決勝大会」への出場権が与えられる。

(5) 申込要領, 申込先

①申込は、インターネットにて行う。全日本ロボット相撲大会公式サイトに用意された登録フォームより必要事項を入力し、以下期間中に申し込む。

申し込み期間：2026年7月1日から7月31日まで

全日本ロボット相撲大会公式サイト: <https://www.fsi.co.jp/sumo/>

②参加費は無料とする。

③申込はロボット1台につき1回。

5. 全国大会

(1) 開催日

2026年11月28日(土)

(2) 会場

ビッグパレットふくしま

福島県郡山市南二丁目5-2

(3) 参加者

地区予選会通過者。

自立型/ラジコン型のそれぞれでトーナメント方式により決勝戦を行う。

(4) 表彰

賞状：文部科学大臣賞(予定)

経済産業大臣賞(予定)

公益財団法人産業教育振興中央会会長賞(予定)

公益社団法人全国工業高等学校長協会理事長賞(予定)

副賞：富士ソフト株式会社賞

以上